



2017年7月20日

慶應義塾大学 SFC 研究所

東京大学 生産技術研究所 ソシオグローバル情報工学研究センター

ブロックチェーン技術のオープンな国際産学連携グループ

BASE アライアンス 設立のお知らせ

慶應義塾大学 SFC 研究所および 東京大学 生産技術研究所 ソシオグローバル情報工学研究センターは、今後の情報システムの技術基盤として期待されるブロックチェーン技術のオープンな国際産学連携グループである、「BASE アライアンス」を設立します。活動開始にあたり、プレス向け説明会を7月24日（月）に開催いたします。ぜひお越しくださいますようお願い申し上げます。

■プレス向け説明会のご案内

日時：2017年7月24日（月）13:00-13:30

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール

アクセス <https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

https://www.keio.ac.jp/ja/assets/download/maps/mita/map_mita.pdf

キャンパスマップ1の建物1階となります。

出席者： 松浦 幹太 東京大学 生産技術研究所 教授
村井 純 慶應義塾大学 環境情報学部 教授
松尾 真一郎 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授 /
東京大学 生産技術研究所 リサーチフェロー /
MIT メディアラボ 所長リエゾン（金融暗号）
岸上 順一 室蘭工業大学大学院 教授 / 慶應義塾大学 訪問教授 /
W3C アドバイザリーボード
鈴木 茂哉 慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 特任准教授
林 達也 慶應義塾大学 SFC 研究所所員 ブロックチェーンラボ 研究員

※プレス向け説明会の後、別紙のとおり、一般向けのワークショップが実施されます。

ワークショップのご取材は先着15名に限り受付いたします。

取材申込：BASE アライアンス事務局まで次の内容をメールで7月23日（日）12:00までにご連絡ください。当日駐車場の用意はございませんので公共の交通機関をご利用ください。

内容：媒体名、氏名、連絡先（E-Mail、tel）、ワークショップの取材有無、カメラ持ち込みの有無

申込先：kbcl-info@sfc.wide.ad.jp

■ BASE アライアンス 設立趣意

ブロックチェーン技術は、暗号通貨 Bitcoin の誕生により生まれ、さまざまなデジタル通貨を生み出すだけでなく、公開された分散型台帳という特性を活かした応用が多様な分野で検討されています。ブロックチェーン技術を基盤として用いるためには、オープンな議論の元、改善されていく必要があります。また、研究開発や実験実証をする場が必要です。

このような見地から、ブロックチェーンの研究を、オープンな議論・研究開発・実証実験により、国際的な産学連携によって推進する事を目的とした、BASE アライアンスを設立いたしました。

BASE という名前は、Blockchain Academic Synergized Environment の頭文字をとったもので、ブロックチェーンの学術研究環境における産学連携のシナジーを意図したものです。

■ 本アライアンスの活動概要

本アライアンスでは、大学の教員・研究者を中心とする学術系のメンバーと、ブロックチェーン技術に興味を持つ企業を中心とする企業会員が、相互に連携しながら、研究開発・実証実験・コミュニティ醸成を推進します。

本アライアンスでは、今後の具体的な活動として、下記の項目を中心に研究活動を実施する予定です。

- ブロックチェーン技術全般についての研究開発
- ブロックチェーンを用いたアプリケーションの研究開発
- 既存および実装したブロックチェーン技術を用い、実験実証するテストベットの構築、運用、および、その研究
- 国際的産学連携コミュニティの醸成

これらの活動を中心とし、個別のテーマごとにグループを設置する予定です。

また、必要に応じて、各標準化団体とも協調し、相互にフィードバックを行うことにより、世界的な標準化活動への寄与・貢献も進めてまいります。

■ 発起人からの本アライアンス設立におけるメッセージ

慶應義塾大学 SFC 研究所 主席所員 / MIT メディアラボ所長 伊藤穰一

The internet transformed telecommunications, computation and, eventually almost every industry in the world using a wholly new architecture built on layers of standards like the Ethernet, TCP/IP and HTTP/HTML that work together and fall under no one's control. That architecture allowed an unbundling that didn't exist before the Internet, when telecommunications companies had monolithic control over everything from the wires and hardware to software and content.

It gave entrepreneurs and companies the ability to build products and services at each layer, creating an explosion of innovation among and between the protocols that required no "permission" from a teleco or government. Innovators could freely participate in that ecosystem, and they created businesses and tools that no one had ever imagined before.

A similar open architecture is now emerging with the blockchain, which is unlocking the layers of protocols controlled by the financial industry, and entrepreneurs are already building previously unimagined services and businesses among those layers. As with the Internet, the standards that govern the blockchain will best be developed by multiple stakeholders and centered in academic institutions and research labs. My hope is that BASE becomes one of the key players building an architecture for the blockchain that is as free and flexible as the architecture of the internet.

(日本語訳)

インターネットは、Ethernet、TCP/IP、HTTP と HTML のような標準のレイヤーの上に構築された全く新しいアーキテクチャを使い、全体をコントロールする人がいないようにすることで、通信、コンピューティング、そして最終的には世界中のほぼ全ての産業の形を変えました。このアーキテクチャは、通信会社が通信路、ハードウェアからソフトウェアとコンテンツまでの全てを統一的に管理していたインターネット以前には存在しなかった技術のアンバンドリングをもたらしました。

インターネットは起業家と企業にそれぞれのレイヤーにおいてプロダクトとサービスを構築する機会を与え、通信会社や政府の「許可」なしに、複数のプロトコルを介したイノベーションの爆発を作り出しました。イノベーターはこのエコシステムに自由に参加することができて、以前には誰も想像ができなかったビジネスと道具を作り出しました。

同じようなオープンアーキテクチャがブロックチェーンによって新たに出現しようとしています。ブロックチェーンは、金融産業によってコントロールされていたプロトコルのレイヤーを解き放ち、起業家は、以前では想像もできなかったサービスとビジネスを、これらのレイヤーの間にすでに作りつつあります。インターネットがそうであったように、ブロックチェーンを統治する標準は、一番には複数のステークホルダーによって開発され、学術機関と研究機関がその開発の中心となるでしょう。インターネットのアーキテクチャと同じくらい自由で柔軟性のあるブロックチェーンのためのアーキテクチャの構築を行うキープレーヤーの 1 つに、BASE アライアンスがなることが私の願いです。

東京大学 生産技術研究所 教授 松浦 幹太

情報セキュリティの確保とは、そもそも何でしょうか。それは、これまで、情報セキュリティの基本要素である秘匿性・完全性・可用性に関する品質管理を徹底することとして概ね理解できました。しかし、今、それぞれのアプリケーション固有の信頼関係を守ることが強く求められるようになってきました。精査を経ない技術も、持論の押しつけに過ぎない運用も、真の守りにはなりません。BASEの指向する研究開発と実証実験体制が、情報セキュリティ分野に必要とされる所以です。

信頼関係を左右する人や組織の行動原理、とくに情報セキュリティに関するそれを科学的に探求するアプローチとして、情報セキュリティ経済学があります。その国際的な研究コミュニティが結成されてから、15年ほどが経過しました。ブロックチェーンに期待される信頼関係基盤の技術を支えるインターネット工学や暗号学等に比べれば歴史は浅いですが、技術と異なる層でも地に足のついた研究をできるようにしたインパクトは大きいと言えるでしょう。仮想通貨への応用を考える場合には、情報セキュリティ経済学の役割はさらに大きくなります。BASEの指向する研究開発と実証実験体制の中で、情報セキュリティの総合的な研究にかかる期待が大きい所以です。

ブロックチェーンのような基盤を持続的に活用するためには、情報セキュリティへの取り組みが、疲弊するばかりの消耗戦と見なされる状態であってはなりません。正当な利用者の生産性を高め、社会の活力を増し、幸福をもたらすべきものです。関心のある当事者が集うBASEというアライアンスを我が国で始めるにあたり、この理想を現実的な目標として意識せずにはいられません。

慶應義塾大学 環境情報学部 教授 村井 純

誰にでも使われ、どこでも使われるような社会の基盤となるテクノロジーは、関心のある当事者によってオープンに議論をすすめ、開発される必要があります。また、開発されたシステムは運用され続け、冷静で公平な評価を行い、改善されていく必要があります。

インターネットが社会の基盤となった現在、インターネット上に分散するデータの信頼できる流通の仕組みを形成するプラットフォームが必要です。BASEは、ブロックチェーンのような基盤が、多様な応用のためのデータプラットフォームとなるための研究開発と実証実験を国際的な産学ネットワークで推進する体制です。

このような体制は、インターネットの黎明期に活発に推進されていました。WIDEプロジェクトは産学のエンジニアを有する組織が連携し技術標準と研究開発を行い、実証実験としてインターネットの運用を担いました。また米国で発祥したInteropというイベントは、分散して行われた開発の相互運用性試験を通じた開発者と運用者のコミュニティの形成を担いました。ブロックチェーンから発展する新しい情報流通基盤への要求と期待を多様なサイエンティストやエンジニアを交えて実現するために、BASEとしての活動体制を開始しました。ここでの活動が未来のインターネット社会に貢献することを期待しています。

■ アライアンス構成メンバー(順不同)

(運営・研究メンバー)

伊藤 穰一 慶應義塾大学 SFC 研究所 主席所員 / MIT メディアラボ所長
松浦 幹太 東京大学 生産技術研究所 教授
村井 純 慶應義塾大学 環境情報学部 教授
松尾 真一郎 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授 /
東京大学 生産技術研究所 リサーチフェロー /
MIT メディアラボ 所長リエゾン (金融暗号)
岸上 順一 室蘭工業大学大学院 教授 / 慶應義塾大学 訪問教授 / W3C アドバイザリーボード
鈴木 茂哉 慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 特任准教授
林 達也 慶應義塾大学 SFC 研究所所員 ブロックチェーンラボ 研究員

■ お問い合わせ先

慶應義塾大学 村井研究室 ブロックチェーンラボ方 BASE アライアンス事務局
Tel: 0466-49-1100 Fax: 0466-49-1101
E-Mail: kbcl-info@sfc.wide.ad.jp Web: <http://www.base-alliance.org/>

【配信元】

慶應義塾大学湘南藤沢事務室学術研究支援担当
Tel: 0466-49-3436
E-Mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp

【別紙】

ワークショップ「ブロックチェーンの未来」開催のお知らせ

慶應義塾大学SFC研究所ブロックチェーンラボ
東京大学生産技術研究所松浦研究室 共催

このたび、慶應義塾大学SFC研究所ブロックチェーンラボ 及び 東京大学生産技術研究所 松浦研究室 の共催により、ブロックチェーンの学術研究における取り組みについて紹介するワークショップを2017年7月24日に慶應義塾大学三田キャンパスで開催する運びとなりました。

参加費用は無料、先着順とさせて頂いております。イベント後に懇親会を準備しておりますが、懇親会については有料とさせて頂きますので、ご了承ください。

- 記 -

日時: 2017年7月24日(月) 14:00-18:00 (懇親会は 18:00-20:00を予定)

場所: 慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール (下記地図1番の建物)

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

プログラム:

- 14:00-14:25 開会の挨拶および基調講演1 慶應義塾大学環境情報学部 教授 村井 純
- 14:25-14:50 基調講演2: ブロックチェーンと信頼関係のもたらす防御者革命
東京大学生産技術研究所 教授 松浦 幹太
- 14:50-15:00 基調講演3: ブロックチェーンの研究開発における産学連携への期待 (ビデオ)
慶應義塾大学SFC研究所主席所員
MITメディアラボ所長 伊藤穰一
- 15:00-15:10 (休憩)
- 15:10-15:30 講演1: ブロックチェーン技術の成熟に向けた国際的学術研究ネットワーク
BSafe.Network の取り組み
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授
東京大学 生産技術研究所 海外研究員
MITメディアラボ 所長リエゾン (金融暗号) 松尾真一郎
- 15:30-15:50 講演2: Application of Blockchain in Safecast's Open Radiation Sensors
Pieter Franken
Senior Visiting Researcher, Keio Research Institute at SFC

Representative Director, 一般社団法人 Safecast Japan

※ 英語です。同時通訳は用意いたしませんので、ご了承下さい

- 15:50-16:10 講演3: Open^2data 公共データへのブロックチェーンの応用
室蘭工業大学大学院 教授
慶應義塾大学 訪問教授
W3Cアドバイザーボード
岸上 順一
- 16:10-16:30 講演4: 監査付き通信路としてのブロックチェーン
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任准教授 鈴木茂哉
- 16:30-16:40 (休憩)
- 16:40-17:40 パネルディスカッション
17:40-17:45 閉会の挨拶
- 18:00-20:00 懇親会 (三田キャンパス内生協食堂)

参加を希望されるかたは、以下のサイトから参加をお申し込み頂けるようお願いいたします。
取材につきましては、下記連絡先までご連絡頂けるようお願い申し上げます。

申し込みは、以下のリンクからお願い致します。懇親会の会費は3000円となっております。
※ 懇親会の申し込み締め切りは、7月20日とさせて頂いております。ご注意ください

ワークショップ(無料): <http://peatix.com/event/282882>
懇親会(3000円): <http://peatix.com/event/282915>

問い合わせ先:

慶應義塾大学 SFC研究所 ブロックチェーンラボ

E-Mail: kbcl-info@sfc.wide.ad.jp Web: <http://kbcl.sfc.keio.ac.jp/> (近日公開予定)